昭和のテレビ物語:第10話【渡辺のジュースの素】

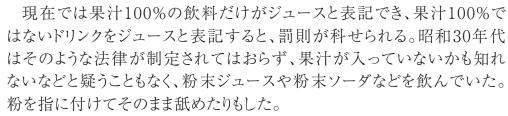
2022.12

冗句大学笑学部 毛減狂寿(高橋揚一)

ミッミミレドレッレレレ、シッシシラソドッドドド、フィフィ~イ。毛減先生今晩は。 やあ今晩は、元気かね?何でも考えかんでも知って、何でもかんでもやってみよ う。さて今日は…。



♬あーら おやまあ ほほいのほーいともう一杯 渡辺のジュースの 素ですもう一杯 憎いくらいにうまいんだ 不思議なくらいに安いんだ へへー 渡辺のジュースの素ですよ オレンジパイングレープと 3つの 味がどれでも1杯分5円 安いうまい それに悔しいくらいに便利です♬ 粉末ジュースの先駆「渡辺のジュースの素」。喜劇王榎本健一のダミ 声の歌で人気を博した。



朝のニュースショー番組『スタジオ102』は、昭和40年にNHKで放送が 開始された。それまではNHKも民放も朝や昼はニュースや天気予報など の番組が小刻みに組まれていたが、この頃からテレビ朝日の『木島則夫 モーニングショー』や『桂小金治アフタヌーンショー』などのワイドショー番 組が始まった。ニュースのほかさまざまなコーナーが用意されて、NHK 『スタジオ102』では化学の実験なども行われている。

ファンタ・オレンジをビーカーに注ぎ、オレンジを絞った天然果汁と並べ て、中に白い純毛の毛糸を入れてアルコールランプで熱することにより、 疑似果汁は色素が吸収されてしまうことを示す実験を行った。当時は発 癌性の成分も含まれていたという。

ボトルに紙を巻いて商品名を隠されたファンタ・オレンジだったがアメリ カのデザイナー、レイモンド・ローウィによる独特のボトルが功を奏して視 NHK 『スタジオ 102』 聴者にはすぐにファンタだとわかってしまった。

現在は果汁1%と表記されているが、当時はこうした表記の義務はな く、名称にオレンジと記されているので、オレンジは入っていないのではと 疑う人はいなかったのだろう。その後の法改定により背面に小さく「無果 汁 |と記されるようになり、他の成分も表示されるようになった。

発癌性の甘味料は他の成分に変更されて、液の色から毒々しさが除 去されているらしいが、名称は今なお「ファンタ・オレンジ」のままである。

「ファンタ・オレンジ色 |と悔い改めないのはなぜだろうか。「オレンジ |と いう言葉には果物の名称だけではなく色の名称もあるからと居直ってい るのだろうか。でもそれは「ファンタ・グレープ」には通用しない。

「ファンタ・オレンジ |とは「オレンジ |が入っていることを表現するのでは なく「オレンジ | が入っていないことをひたすら隠蔽する役割を担ってし まった。表現=隠蔽である。身の回りには「ファンタ・オレンジ」のような隠蔽 的表現が蔓延しているではないか。「渡辺のジュースの素 |の頃はそん なことには気付かないノーテンキな時代だったのだろう。 以上 拙著『デザインと記号の魔力』(勁草書房)より



あーらおやまあ…



オレンジパイングレープと…



1杯5円袋と徳用大袋





左がファンタで右が天然果汁



ファンタのボトル